

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600143		
法人名	医療法人透現透現		
事業所名	グループホーム白い石		
所在地	佐賀県杵島郡白石町福吉1808		
自己評価作成日	令和 6 年 9 月 30 日	評価結果市町村受理日	令和7年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和6年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から23年目である。白石平野に囲まれた閑静な場所にあり、同じ敷地内に介護老人保健施設白い石が併設している。昼夜問わず看護師の指示を仰ぐことができるため、職員も安心できる。母体の整形外科は連携しやすいよう近所に新築工事中である。ホームは平屋であり、すぐに外に出られる環境で西側には障害福祉施設が隣接しており、時々交流している。庭は広く開放感があり、四季を彩る花や木々を植えており、季節を肌で感じることができる。面会に関して、時間は限られているが、午前中、午後と自由に訪問することができる。御家族様や近所の方々に会えることで、利用者様の安心感につながっている。今年の夏は特に暑く、水分補給や居室の温度管理に気を付けて脱水や熱中症を起こさないよう体調管理に気を配った。そのため体調不良者もなく暑い時期を乗り越えることができた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から23年目のホームは白石平野に囲まれた閑静な場所に位置し、同じ敷地内に介護老人保健施設が併設し、急変時は24時間体制で看護師の指示を仰ぐことができる。また、母体の整形外科は連携しやすいよう近所に新築工事中であり、医療・福祉の連携がより図られるようになるため職員や入居者共に安心して過ごすことができるようになる。コロナ感染症が収束し、近くの施設との交流や家族との面会も行われるようになり、入居者の活気や安心感に繋がっている。職員はチームとして入居者一人ひとりに気を配り、体調不良者もなく乗り越えることができている。また、入居者を尊重し、寄り添った支援ができています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム玄関とステーションに理念を掲示している。毎日目につくことで共通理解が出来ている。職員は理念を意識して入居者にサービス提供を行っている。	理念は、ホームの玄関とステーションに掲示されており、職員が日々意識して理解した上で支援に取り組んでいる。また、1～2週間ごとに理念を職員全体で確認し、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週3回近所の魚屋が行商に来られている。入居者も一緒に食品を見ることが出来る。まだ感染症対策は必要なため、地域の人とのふれあいは少ない。	地域の鮮魚店が訪れ、新鮮な魚や野菜など入居者も手に取り見ることができる。そのほか、地域との交流はまだ少ないが、中学生の体験学習や子ども浮立も訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日ごろ接している認知症高齢者を通じて、いろいろな症状があることを職員とともに話あっている。訪問、見学も自由に行っており、見学者に対し、当施設での取り組みを知らせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に民生委員、区長、行政、家族などの参加を仰ぎ運営推進会議を行っている。グループホームの情報提供行いながら、意見やアドバイスをいただきそれをもとにサービスに生かしている。	現在は2ヶ月毎に民生委員、区長、行政、家族などの参加を仰ぎ、運営推進会議を行っている。会議では活発な意見交換が行われている。会議では研修の報告なども行い、よくまとめられた記録となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様の介護保険更新の場合や、障害者の事に関して役場や介護保険事務所に赴いている。運営推進会議を利用し、担当者と話をする機会を持っている。	主に管理者が役場や介護保険事務所に向き、対面で話す機会を設け、顔が見える関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束廃止に関する指針を把握しており、月1回の身体拘束適正化委員会の折に話し合ったことを報告し、全員で内容の確認を行っている。身体拘束は行っていない。	現在、身体拘束は行われていない。職員は身体拘束廃止に関する指針を把握している。また、身体拘束適正化委員会での報告や研修などでの周知を徹底しており、全員で内容の確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で定期的(1ヵ月毎)に委員会が行われている。何気なく行っている声掛けや行為を確認し振り返りをしながら職員間で注意し合える環境作りを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在この制度を活用している入居者はおられないが、3年前、成年後見制度を利用されている方が入居された時に職員全体で制度について話し合った。1年に1回は制度について話し合いを設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際、運営規定、重要事項説明書など懇切丁寧に説明を行い、利用者や家族が疑問に思われる所はその場限りではなく面会等、機会あるたびに説明行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受診やその他報告をする時に、近況を伝えたり、リモートで写真や、動画を送っている。その時にご家族様からの要望や意見を引き出し、運営に反映させている。また、ご意見箱はホームと隣接している老健にも各設置している。入居の際に説明しており、家族も理解している。	面会・受診等で来られた家族には、近況を伝えたり、SNSで画像や動画も送っている。その際家族からの要望や意見があった場合は、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週木曜日、各部署の役職者が集まり役職者会議を開いている。そこでグループホームも行事計画や衛生管理に関して報告相談を行いそこで助言をしてもらうことでグループホームの運営に反映させている。	法人全体の会議へ参加し、衛生管理など看護師から助言をもらっている。また、管理者が個別に職員に声掛けしたり、話しやすい雰囲気作りに努め、そこで得た意見を職員間で検討し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、各種手当等あることで、職員の励みになっている。1年に1回職員は自己評価を行い、上司の評価を受けている。業務内容を見直しほとんど定刻で勤務が終了している。そのため、職員も働きがいのある職場である意識がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症が相変わらず流行しているが、5類になったことで、関心のある職員は施設外の研修に参加している。また、資格取得に関しても推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県認知症グループホーム協会の会員でありその研修に参加することにより交流を図るようにしている。白石町グループホーム地域連携協議会はコロナ発生時から行なう事ができず、管理者間の交流もできなかったが、電話での情報交換は行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居された方には、入居後もコミュニケーションを多くとることで思いや意向を聞くようにしている。同じ敷地内である老健白い石から入居される方には、事前に老健で顔を合わせ、なじみの関係を築いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご本人の性格や趣味、仕事のことなど聞き取り、それに加え家族様が困っていることに対してどれくらいの支援が出来るのかを職員で話し合うことでより良い介護の提供が出来るようにしている。入居する上での不安を出来るだけ取り除き本人、家族とのより良い関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の健康面、身体面、精神面を中心にカンファレンスやモニタリングで確認しながらケアプランをチェックし、個々に即した支援を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をしていく上で、出来ることはやっていただき、ひとりひとりの個性に応じた作業を、職員と共に行うことで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や、受診の付き添いをお願いしている。家族来所時は近況報告、情報交換、コミュニケーションを図っている。職員は全員での挨拶を心がけている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、グループホームの居室での面会行っており、家族様はいつでも、会える環境にある。家族はもちろんのこと、入居者の近所の方の面会もあり、喜ばれている。地区の子供浮立なども5年ぶりに復活し、交流することができた。	ホームの居室や応接スペースで面会を行っており、家族のみならず友人等の面会を入居者は喜ばれている。また、少数だが携帯電話や手紙での交流もされている。行きたい所へ行く等の支援「夢叶えプラン」を復活させたいと取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホーム内は開放的で、自由に行き来する環境にある。入居者の能力や相性を考え、席の配置、レクリエーションに活用し、孤立することなく過ごしていただいている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に、退居後でも相談事などお受けすること伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中の本人との会話により何を一番に望んでおられるのかの把握に努めている。安心して伝えられるような環境作りにも配慮している。特に1対1で対応できる入浴時のコミュニケーションの中で本音を言われることが多いため、その場を大切にしている。	共用空間では一人でゆっくり過ごせる場所を作り、居室に1人での時は個別の対応を行ったりしている。また、入居者の顔色や行動をみて声掛けをしたり、会話を大切に希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人や家族から聞き取りを行い、担当ケアマネからの情報やケース記録などで情報を収集したり、家族にこれまでの生活歴や暮らしぶり、病歴、性格などを聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は入居者様の観察を怠らず、記録するべきところは記録し、気持ちよく過ごせているかを検討している。それを職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の折、家族の要望も配慮し、できることを中心に考えプランを立てている。1ヶ月毎のモニタリングにて介護計画を確認し、現状にそぐわないプランについては見直しを行っている。	本人や家族の意向を十分に配慮し、介護計画を作成している。また、1ヶ月毎のモニタリングにて介護計画を確認し、関係者等からの聞き取りなどを交え、状態の変化があった場合は見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化は申し送りや記録等で共有している。特に体調不良の場合など、誰もがわかりやすいように記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様個々の状況にあわせた支援を行っている。その都度、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接している障害者施設で買い物したり、運動会、収穫祭などの催しものに参加したり、地域出入りの魚屋さんと交流している。地域の子供浮立が5年ぶりに復活した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、定期受診は家族様で対応してもらっている。体調に変化があるときには、主治医に状態報告のメモを渡し、受診後は家族様に結果をお聞きしている。定期受診以外に体調が不良になられた時にはホームで対応している。	かかりつけ医への受診は、入居者の家族に対応してもらっている。緊急時は、家族と共に職員も同行し、状態説明をしたり対応している。車いすの方はホームで送迎し、医療機関とも連携はできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を組んでいる併設の老健より、看護師が週1回、定期で訪問されている。状態報告し、対応の仕方やアドバイスを受けている。状態変化の時にはすぐに対応出来る体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず職員が同行し、病院へ情報提供している。直接面会ができないため、病院側の相談員と連絡を取り合い、状況を把握している。退院後の事についても病院側とコンタクトをとり、生活がスムーズにいくよう連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りは行っていない事を説明している。状態が悪化した場合、救急搬送する病院の希望を家族様からききとっている。今後についても、ある程度の道筋をつけて家族の不安解消に努めている。その場合には主治医やホーム職員にも情報提供し、方針を共有している。	契約時に重度化した場合の説明を行っている。急な状態悪化の場合、搬送先の病院の確認を家族と行っている。また介護老人保健施設と併設しているので、医師や看護師と連携を取りながら支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全対策委員会において、職員全員定期的（年2回）施設内研修において知識を得ている。事故発生時は老健看護師の指示を仰いでいる。通報マニュアルは職員全員が把握しており確認もできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設の施設と合同で昼夜想定のもとで避難訓練を実施している。また、消火器の使い方や緊急通報システムの使用の仕方など、再度確認を行っている。白石は毎年水害にみまわれており、地域の消防団や地域の方の協力体制の確認を行った。	日頃より災害時を意識して職員間で役割や食料備蓄の確認などを行っている。年2回併設施設も含め昼間・夜間共に想定した避難訓練を行っている。その内1回は消防団と共に行い地域の協力体制を構築している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し優しく丁寧な言葉かけを行うようにしている。入浴や排泄時にはプライバシーに配慮した対応行っている。不適切な対応行った時にはその都度注意し合っている。	個人個人を尊重し、大きな声や後ろから声掛けをしないなど丁寧な対応を行っている。また、居室のドア、トイレのカーテン、入浴等プライバシーに配慮された支援を行っている。同性介助を希望されれば行うようにし、個人ファイルの管理も適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の中で自己決定できるような場面を作り、意思が表現できるよう環境づくりに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその日課はあるが、基本的には本人の体調やその日の気分に合わせて1日を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各居室には洗面台、鏡がついており、洗顔する時は自分の顔を見ることが出来る。化粧をする人はいらっしゃらないが、髪を整えたり洋服を整えたりしておられる。1か月に2回指定の理容業の方が訪問され散髪を実施されている。その際希望する方は行われている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備等、できる入居者様と職員が一緒に行っている。味や、食材の好みメニューなどできる限り対応している。季節のイベントでの食事や地域特産の食べ物で昔の思い出話に花を咲かせることもある。	入居者の希望をもとに、職員がメニューを決め交代で調理している。準備等できる入居者の方とは一緒に行い季節のイベントに合った食事や地域の食材を使い入居者の意向を反映している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えて食事を提供している。水分は1日の中で必ず補給する時間を決めて実施している。食事については個人に応じた食事形態を提供し、チェック表により食事量を把握して対策を講じている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては毎食後、実施している。状態に応じて困難な方には介助行っている。また、入れ歯の管理が難しい方はこちらで預かっている。口腔状態に問題がある場合は本人や家族の希望により、訪問歯科治療を依頼し治療行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により全員の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導により汚染も軽減している。リハビリパンツを使用していた方も汚染が少ない方は布パンツに変更している。夜間は個々に沿った排泄時間に誘導を行っている。	チェック表により全員の排泄パターンを把握し、個々の排泄誘導により、汚染やオムツの使用軽減に繋がっている。夜間も個々状況に応じて、排泄誘導が行われており、配慮された支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関しては排泄チェック表にて排便間隔を把握している。排便困難者については、薬だけに頼らず、食事内容、食事量、水分量などに配慮し予防に努めている。便秘が続く場合は主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回行っている。その日の体調や気分により自己決定できる。個別にゆっくりリラックスして入ってもらっている。入浴後は肌の状態も確認し、保湿は十分に行っている。	入浴は個別で思いなど話せる様ゆくり入ることができ、週3回実施されている。その日の体調や気分によって別の日に入ることもできる。また、入浴後の肌の保湿なども配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの睡眠状況のパターンを把握している。日中、日光浴や軽い運動、午睡を取り入れることにより生活のリズムを整え、入眠しやすい環境を作っている。9室中2室は洋室のベッド部屋に改装おこなった。その方にあった部屋の提供を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合、申し送るだけでなくケース記録に最新の薬の説明書を入れ、副作用についての状態の観察を行えるようにしている。また、1回分ずつケースに入れ2人以上で確認を行い本人と、薬を照らし合わせ間違いがないよう服薬してもらっている。最後にチェック表に記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、好きなことや得意な事（塗り絵、習字、縫い物、洗濯物干し、たたみ、他）を日々の生活の中で習慣として行うことが出来ている。できた時の達成感で満足することが出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のいい春先はドライブで桜や菜の花見学に行ったが、今年は5月ぐらいより暑さが尋常ではなく、外に出る機会が減った。庭でのレクリエーションを行っていたが、それもできなかった。しかし、個々の受診の際に家族と一緒にちょっとドライブしたり、自宅に寄ったりされている。また、それを奨励している。	ホームでの外出は猛暑のため外出の機会が減ったり、施設の庭でのレクリエーションは見送られているが、コロナ感染症対策も緩和され、面会も再開される様になった。希望があれば家族とのドライブや、自宅に戻り遠方の家族と再会などされており、入居者は気分転換等できるようになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の中に、個人で財布を持ち、少しのお金を所持されている方がいる。自分のお金を持っていることで、安心されている。週3回近所の魚屋さんが行商で来られた時に買い物するのを楽しみにされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの贈り物やお手紙等、頂いたときには、こちらから電話したり、ライン電話等で話してもらっている。また、行事ごとの写真等送ると大変喜ばれている。手紙を書く機会は減ったが、便利な機能を利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋であり、すぐ外に出られる環境になっている。採光が良く明るくて気持ちがいい。玄関やホール棚などに季節の花を飾っている。換気に注意し、空気のとどみがないようにしている。また、各居室、ホール、廊下に温度計、湿度計、空気清浄器を設置し、適切な温度管理を行っている。	室内は光が差し込み明るく気持ちよい空間で、各所に温度計、湿度計、空気清浄器を設置し、適切な温度管理を行っている。また、玄関やホールには季節を感じる掲示物や入居者の作品があり、職員も慌てた対応をしないように心掛け、居心地良く過ごせる様に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの随所には椅子をおいており一人でゆっくり外を眺めたり、気の合った仲間同士がくつろいだり出来る。一人横になりたいときは居室で休んだりされる。北側は畑や風景を見る場所に適している。天気の良い日は外に椅子を置き、花壇を見たり外気浴をしたり気分転換を図る事が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は段差を設け畳敷きとなっている。(2部屋はベッド部屋)入居者や家族とも相談し、馴染みの品物を持参され、入居者にとって安心出来る居場所になっている。	居室は腰高の段差を設けた畳敷きとなっている。居室への持ち込みは家族と相談し、馴染みのあるものを自由に持参され、家族写真など飾られており、居心地よく生活できる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日付がわかる様日めくりカレンダーを設置したり、居室やトイレなど場所がわかりやすいよう工夫している。床は段差がなく歩きやすいため自由に歩行訓練する方もおられる。		